



豊中 だより

2024年6月号 (NO.10)

お薬 のはなし ～飲みすぎて、身体に異変はありませんか？～

近年、ポリファーマシーという言葉が注目されています。

ポリファーマシーとは、必要以上に薬を飲んでいることで、身体に何かしらの問題が引き起こされてしまう状態をさします。

ポリファーマシーはなぜ起こる？

・代謝機能の低下

加齢や病気により肝臓や腎臓の働きが弱くなると、薬が体内に留まる時間が長くなります。他の薬と影響し合って、効きすぎたり、効かなかったり、副作用が出ることがあります。

・複数の医療機関の受診

複数の医療機関を受診し薬が処方されたとき、それぞれが少量でも全体として薬が多くなったり、重複していたり、一緒に服薬しない方がいい薬が処方されてしまう場合があります。



・処方カスケード

薬によって起こった有害事象(症状)のために受診し、新たな薬で治療しようとすると、さらに薬が多くなる悪循環をいいます。

・服薬アドヒアランスの低下

薬が多すぎると、きちんと正しく飲む意欲が低下します。

※服薬アドヒアランスとは、患者が医師の指示に従って適切に薬を飲み治療しようとするをいいます。

・自己判断での服薬中断など

勝手に薬を止めたり、減らしたりするのはよくありません。急に薬を止めると症状が悪化したり、思わぬ副作用が出ることがあります。

外来受診時に
薬剤師がご相談
を承ります



ポリファーマシーを防ぐには？

- ・かかりつけ医、かかりつけ薬局をもちましょう。
- ・受診の際は必ずお薬手帳をみせましょう。
- ・お薬手帳は1冊にまとめましょう。

次回

第19回 地域住民公開講座

沈黙の疾患

高血圧

高血圧は自己管理が可能な疾患です。また多くの場合、自覚症状がありません。糖尿病、脂質異常症とともに生活習慣病の1つとして日頃からの管理が重要です。健康な生活を送るための知識を学び、高血圧予防につなげるステップを踏み出しましょう！医師から直接疾患について話が聞けるこの機会をお見逃しなく！

日時： 6月 13日(木) ・ 6月 27日(木) 13時～

講師： 院長 柿坂明俊 (医師)



医療法人
歓生会

豊岡中央病院

旭川市豊岡7条2丁目1番5号

☎ (0166) 32-8181

